

下田歌子資料展

今回の「下田歌子資料展」は、下田先生直筆の和歌作品とともに、下田先生の和歌の弟子であり、教育家の塚本さと子女史の設立した淡海女子実務学校（滋賀県神崎郡五箇荘町竜田）の資料を中心として展示する。

淡海女子実務学校は、大正8年に設立された。塚本さと子女史77才の時である。その後、塚本女史、高齢の為、大正14年3月、下田先生が、あとを継ぎ、校長に就任。名称を淡海実践女学校と改称、一時 実践女学校の分校ということになった。翌大正15年には、高等女学校に昇格、淡海高等女学校となる。下田先生は、昭和5年7月まで、その任にあった。

淡海女子学園は、その後、地方の私学として歴史を重ねてきたが、立地条件の悪さなどもあり、昭和60年3月、66年間の歴史をとじた。

1 和歌短冊

(1) 幼年期

一 惜月 をしきかな 月はくまなき秋の夜も はやあけ方の近くなりゆく
(せき子 10才 文久三年) (805)

二 山家梅 人もこぬ深山のおくの柴の戸を はりにあけても匂ふ梅か香
(せき子 11才 元治元年) (809)

三 白きかめによする祝を
萬代もおさむる君か旗いろに かめさへ白くあらハれにけり
(せき子 12才 慶応元年) (813)

(2) 青年期

一 遠山雲 たなびくハ安房か上総か幽なる 遠やままゆにかゝるしら雪
(2304)

二 深草里 たどるべき鶉のとも冬がれて 降雪ふかし深草のさと
(2321)

三 韓信 斧のえもとらでや朽むをり捨し しばの末葉にしのはざりせば
(2334)

(3) 壮年期

一 柳絲風静 中垣に柳のいとぞかゝりける なびきしまゝに風やたえけん
(2028)

二 かげ荒き維のはやしを心せよ 生末たのむやまと撫子
[明治43年] (3195)

三 たちばなの散しむかしのあととひて 今も音をなくほとゝぎすかな
(3614)

2 色紙

小色紙 1枚 21×18.1cm
「鶉 尾花ちるみぬまの夕日かけゆきて かと田のうづら高ねなくなる」
(3571)

3 和歌詠草

詠草 平尾うた子 (3)
1冊 横綴本 [明治6, 7年頃] 高崎正風朱筆添削

4 無窮帖(御大典記念)

1帖 帖装 28.8×25.1cm 大正4年 塚本家旧蔵
この「無窮帖」の内、扇面和歌一首
「おほ君のみいつすなはち日のもとの光とあふく国はわが国 歌子」

5 清風帖

1帖 袖珍帖装 9×4.5cm 塚本家旧蔵
この「清風帖」の内、今様一首
「雲の薄墨すそきて つゝかぬ文字の三つ二つ 見えみ、みえずみ
雁がねの翅にかくす月の眉 香雪」 *香雪=下田歌子の雅号

6 下田歌子履歴書

1通 昭和2年10月 淡海女子学園旧蔵
大正15年、淡海高等女学校に昇格した後、行政の手続きの為、県へ提出したものの控であろう。

7 写真

淡海女子実務学校創立記念撮影 (1049)
写真1枚 大正8年4月8日 右から下田歌子、塚本さと子校長、嘉悦孝子の各女史

8 書幅 題桃実図

和歌 下田歌子、塚本さと子 絵 嘉悦孝子 (三女史合作)
1軸 29cm 大正8年 塚本家旧蔵
淡海女子実務学校創立記念の際、書かれたもの。
神崎のさとのひめ桃三千とせの 実をむすぶまで生したてなむ 歌子
名にたかきをしへのおやをしるべにて われもまなびの道をたどらむ さと子

9 塚本友子[病中詠草]

朱筆添削 下田歌子
1冊 半紙判 [大正10年頃より昭和5, 6年まで] 塚本家旧蔵
塚本さと子女史の孫で、病氣療養中であった塚本友子氏の詠草に、下田先生が、添削をほどこしたものを。

- 10 きぬがさ会詠草
13冊・仮綴3冊 美濃判 大正11年より昭和11年まで
きぬがさ会とは、淡海女子実務学校の背後に織山（きぬがさやま）という山
があり、それにちなんで付けられた淡海女子実務学校の同窓会である。この
「きぬがさ会」に、下田先生の指導で、歌道部が設けられた。
詠草は、その下田歌子先生の朱筆添削が加えられたものである。

- 11 [手紙貼りませ集]
1軸 21.4cm 塚本家旧蔵
下田歌子、棚橋絢子等の書簡・絵葉書・名刺などを貼りませて、卷子本仕立
てにしたもの。